

姫路港

兵庫県県土整備部土木局港湾課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1

☎078-341-7711(代)

URL : <http://web.pref.hyogo.lg.jp/kowan/index.html>



1. 概況

姫路港は瀬戸内海の北東部、播磨地域のほぼ中央に位置し、姫路市南部の全海岸部を港湾区域とした国際拠点港湾で、隣接する東播磨港とともに、工業港として我が国の経済活動に重要な役割を果たしている。平成31年には開港60周年を迎え、記念事業として飛鳥Ⅱ入港日のオープニングセレモニーや姫路港発着の「ぼん丸チャータークルーズなど」兵庫を支え、世界に翔る姫路のみなと」をテーマとした港の魅力を伝える多様なイベントを開催した。

姫路港は東西約18kmにおよぶ港湾区域を有し、その成り立ちや特性から大塩～白浜地区、妻鹿地区、須加・中島地区、広畑地区、吉美・網干地区、浜田地区の6つの地区に大別される。なお戦後の姫路港の沿革は以下のとおりである。

昭和26年、飾磨、広畑、網干の3港を統括して重要港湾姫路港となり、昭和28年に兵庫県が港湾管理者となる。昭和34年、関税法の規定により飾磨、広畑が開港に指定された。昭和38年には港湾区域が拡張され、八木、的形、福泊、大塩の各港を包括し、同年、港則法による特定港に指定された。昭和40年、妻鹿地区の一部が、また同年に浜田地区が開港区域となり、昭和42年には特定重要港湾に指定され、平成23年には港湾法の改正に伴い国際拠点港湾に名称変更し、現在に至っている。

上記6地区のうち、最東部に位置する白浜～大塩地区には、マリレジャーやゴルフ等ができるウォーターフロント空間と呼ぶにふさわしい施設が点在しており、潮干狩、海水浴、魚釣り及び散策に広く市民に利用されているところである。

妻鹿地区は、昭和36年に当地区地先に電力石油コンビナートの建設が決定して以来、石油港湾としての整備が進められ、揚油栈橋15バース等が完成し、さらに昭和45年には対象船舶21万重量トン級のシーバースが完成したが、石油コンビナートはコスト競争力強化に伴う供給体制の見なおしから平成15年に閉鎖された。また、播磨南部の大気環境改善とエネルギーの安定供給を図るため、昭和54年よりLNG基地としての利用もされており、当地区は関西のエネルギー基地として重要な役割を果たしている。

須加・中島地区には-10m岸壁や-12m岸壁等を有した公共ふ頭が整備されており、姫路港における公共貨物の取扱い中心地区として利用されている。また、須加地区では、「姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル基本計画」に基づき、

旅客船利用者の利便性、快適性向上のために、旅客ターミナルエリアの再整備に取り組むこととしている。

広畑地区では、姫路港における大型船の入港に対応するため、平成6年度より-14m公共岸壁の整備を進め、平成15年より供用している。また、平成17年にはガントリークレーンを設置した。

網干・吉美地区には、背後に立地する鉄鋼関連企業の原材料や製品を取り扱う公共ふ頭及び化学、薬品、重油、石油製品型企業の専用栈橋が整備されている。また人工海浜を有した「網干なぎさ公園」や573隻が収用できるボートパークを供用している。

浜田地区は、姫路港の木材輸入基地として、-10m岸壁1バース、-7.5m岸壁1バースが整備されている。しかし、木材需要の変化に伴い、木材の取扱量が減少していることから、今後、遊休化した水面貯木場の有効利用を図っていく予定である。

循環型社会の構築を図る一環として、姫路港は、平成15年にリサイクルポートに指定され、静脈物流ネットワークの拠点としての役割が期待されている。